村山教育事務所だより
E-NEWS むらやま
第２５９号
発行日：令和５年９月２０日
「E-NEWS むらやま」で検索または 右記二次元コードから。バックナンバーも見ることができます。

令和５年度初任者研修

体験活動研修

８月８日（火）山形県朝日少年自然の家
８月９日（水）中山町中央公民館

村山管内の小・中・特別支援学校の教諭及び養護教諭 65 名が参加し、初任者研修が行われました。

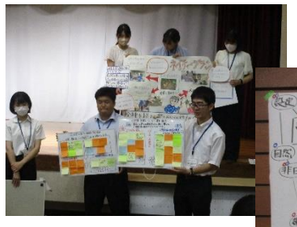
１日目は、「体験活動研修を通して育成を目指す児童生徒の資質・能力」「自然の家で研修を行う理由」「野外炊飯を行うにあたり教員として配慮すべきこと」「小・中・特別支援学校の児童生徒が交流できる異校種ネイチャープラン」について、体験を通してチーム毎に考えました。２日目は、１日目の活動のまとめと発表を行いました。

◇◆◇初任者の振り返りより◇◆◇

どのような資質・能力を身に付けさせたいかを具体的に考えることが大切であり、それが活動を貫く柱となることがわかった。また、事前学習を充実させることも必要で、児童生徒が自分たちはどのようにしたいか、そのためには何をすればよいのかということを十分に考える時間を設けたいと思った。

特別支援学校と他の校種の児童生徒がどこまで一緒に活動できるか想定することが難しかった。しかし、特別支援学校の児童生徒にとって、他の人と関わることは、今後、社会の中で生活する上でとても大切であるため、今回、悩みながら異校種の先生方と考えを出し合う機会をもつことができ、よい経験となった。

どの活動においても児童生徒が元気に過ごせることが大切だと感じた。養護教諭が児童生徒の健康を把握し、他の先生方と情報交換をしながら健康面をサポートしていかなければならないと改めて感じた。非日常の生活のため疲れやすかったり、具合が悪くても伝えられない児童生徒もいたりすると思うので、早期発見と適切な対応をしていきたい。



育成を目指す児童生徒の資質・能力を基に活動を考えることが、授業づくりと同じであることに気付き、毎日の授業に生かしていこうと新たな目標をもったようでした。そして何より、初任者同士の絆をより深めることができた有意義な研修となりました。

令和5年度　学校・家庭・地域の連携協働推進事業

第１回村山地区放課後子ども総合プラン指導者研修会（オンライン開催）

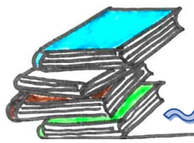
８月 30 日（水）
参加者:約 650 名

本郷一夫氏（ＡＦＬ発達支援研究所代表）を講師に迎え、『特別なニーズをもつ子どもの背景と支援』というテーマで講話をいただきました。放課後子ども教室や放課後児童クラブにおいて、特別なニーズを必要とするときの対応や支援の実際、関わりの事例等についてお話いただきました。事前のアンケートから把握した参加者が抱えている課題についても講話の中で触れていただき、学びを深めました。

【本郷氏の講話より】
・「気になる子ども」の言葉や行動を見るだけではなく、その背景にある要因を明らかにし、理解しながら対応していくことが必要である。
・子ども同士のトラブルに対して、「～してはいけない」ではなく、「～する」「～しよう」など望ましい行動を具体的に示すことが大切である。

【参加者の声】
・支援が必要な子だけを支援していくのではなく、皆を平等に支援していく必要があると考えることができた。
・直接子どもと触れあう毎日の現場でよくある事柄を詳しく解説していただき、大変勉強になった。
・障がいがあるないに関係なくその子にあった支援ができるように、私たち支援員が研修し習得していくことの大事さを再確認した研修会だった。

11 月 15 日（水）には、第２回村山地区放課後子ども総合プラン指導者研修会が予定されています。対面での実技研修になっています。多数の御参加をお待ちしております。



本の世界への招待
～いろいろあります読書活動につなぐ手立て～

７月 20 日（木）に甑葉プラザ（村山市）で第１回村山地区読育推進ネットワーク研修会を開催しました。教職員・幼保関係者、図書館・読み聞かせボランティアサークル関係者など、子供たちの読書活動を支援する様々な職種の方々から参加をいただき、研修を深めました。３つの団体による事例提供に加え、「私のおすすめの一冊」や実践の紹介を交えた活発な情報交換となりました。

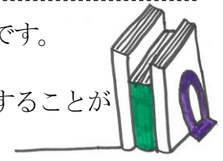
杉原明美氏より
（村山市立図書館）
★移動図書館「はやま号」と地域との連携
★「ほんのつうちょう」の紹介

佐藤奈津子氏
信夫春香氏より
（尾花沢市立尾花沢小学校）
★主体的な児童会活動
★ブックランチにおける他機関との連携

遠藤恭子氏
武田静子氏より
（図書館ボランティア　チェリー）
★ペープサートや「おはなしの木」の紹介
★親子への支援

【お知らせ】
第２回の開催も予定しておりますので、ぜひ御参加ください。

【参加者の声】
・読み聞かせの選書、工夫などいろいろな方からお話を聞くことができて楽しかったです。また、すぐに実践できそうな事も多く、これから活かしていきたいです。
・事例報告や同じ図書館職員の悩みを共有することで課題の解決方法のヒントを発見することができました。読み聞かせの意義について悩んでいたことが解決できました。



学習指導要領の趣旨の実現に向けて

令和5年度村山地区小・中学校教育課程研究協議会より

令和５年８月４日（金）に村山地区教育課程研究協議会が、今年度も、Zoom 会議システムによるオンライン型研修の方法で開催されました。定数の割当以外でも校内研修として視聴してくださるなど、オンラインの良さを積極的に活用していただきながら、500 名以上の先生方に参加していただきました。

さらに、今年度より伝達講習を説明動画を使用して行ったことで、協議の更なる充実が図られ、事後アンケートにおいては、多くの先生方から学びのある有意義な研修になった旨の感想をいただきました。ありがとうございました。

＜参加者の声から＞

学校研究でも国語を行っており、その中で評価が常々話題に上がっていた。若手が多い職場でもあり、具体的な評価のお話は非常にありがたかった。休み明けすぐに、周知し指導に生かしたい。**（小国語）**

言語活動の充実した算数授業の３つのポイントと、その際の評価方法を具体的な子供の姿で学ぶことができたので、それを共有したい。**（算数）**

子供たちが幼稚園や保育園で学んできたことを、生活はじめ様々な活動で生かしていくことが大切だとわかった。特に、深い学びにつながるためにたくさんの体験と表現の場を設けていきたいと感じた。**（生活）**

道徳の授業を行う中で、価値の押し付けにならないように、生徒一人一人の考え方や意見を大切にすることの重要性について改めて学ぶことができた。授業の中でしっかりと価値項目に迫れるようにするために道徳部会を開き、重点内容項目の確認や振り返り、見直しを図りたい。**（道徳）**

学級活動（1）が何よりも大切であることがわかった。豊かな学級を目指して子供たちが楽しく学校生活を送れるような学級活動を一緒に考えていきたい。
また、（1）を充実させるだけでなく、疎かになっていた（2）や（3）も頑張っていきたい。**（特活）**

中学校１年生の導入期を、必ずしも教科書どおりの流れで始めずに小学校の授業からのつながりを意識した活動にすることで生徒が安心して学習をスタートできることがわかった。小学校で使用していた教科書やピクチャーディクショナリーも資料として使用することも検討したい。**（外国語）**

「主体的に学習に取り組む態度」の評価例をわかりやすく教えていただき、２学期に実践させていただきたいと思った。また、記録のタイミングや、「適切な指導をしてから評価する」などの視点で指導と評価計画を作成していきたい。**（中理科）**

学びの主体は子供であり、幼、小、中、高とつながりを意識して教育活動に携わっていくこと、学区内の小中情報交換や交流の場を大事にすることを学んだ。**（総則）**

協議会に参加された先生方は、今回の研修をとおして理解を深めた学習指導要領の趣旨や内容、実践を交流した「主体的・対話的な深い学び」のための ICT の効果的な活用などについて、ぜひ校内や近隣学校の先生方と共有していただき、授業改善にお役立てください。

また、今回の協議会における全教科の動画資料等は、下記 URL 及び２次元コードでダウンロードできます。感想等を読み、内容が気になった方は御確認ください。

URL
https://drive.google.com/drive/folders/13X2HvZYyEV2INn8vKxr0v9EtrORlkyoZ?usp=drive_link

やさしさと温かみのある通常学級の学級づくりと授業づくり

＜村山地区特別支援教育研修会＞

令和５年８月 22 日（火）に、小・中学校、特別支援学校、高等学校、幼稚園等の教員等を対象に研修会を開催しました。杉並区立済美養護学校の川上康則先生より御講演いただき、学級の全ての子供がキラキラと輝くためのヒントをたくさんいただきました。

講義を受けた参加者の中で、多くの方が心に残った言葉として挙げているものについて、講義の内容と参加者が２学期から実践したいことを紹介します。

ハームフル

教室に「尖った不穏な風」を吹かせる
ハームフルな（毒づいた、ためにならない）言葉
（１）質問形式の問い詰め
「何回言われたらわかるの？」等
（２）裏を読ませる言い方
「やる気がないならやらなくていい」
（→本当は「やりなさい！」）等
（３）脅しで動かそうとする
「はやくやらないと□□させないよ」等
（４）虎の威を借る言い方
「校長先生に叱ってもらうから」等
（５）下学年の子と比較する
「そんなこと１年生でもやりません」等
（６）見捨てる
「じゃあ、もういいです」等

感情労働

教育は「感情労働」です。感情をコントロールできない時も多々訪れる業界です。

感情をコントロールできないときの「追い詰められ感」の理由
□時間がない（やるべきことがある）
□やり方がわからない/見えない
□大人側の解決能力や我慢が足りない
□助けてくれる人がいない（理解者不足）
□他者の視線（他者評価）

このような時は、気持ちの「余白」がなくなり、笑顔もなくなり迷いも生まれやすいです。

このような言葉を選ばないような習慣を作りたいです。

子供の行動を温かく見守ることができるように心を整えることを大切にしたいです。

追い詰められていないか、自分の状態を知ることが大事だと思ったので、時々、自分自身のことも振り返って見ようと思います。

何気なくかけていた言葉を見直してみます。

見過ごされがちだけども大切な関わり15選

（１）待つ（ペースを尊重する）
（２）その子なりの行動の意味を考える
（３）目をつぶる（寛容度を上げる）
（４）力に頼らない（上からでなく横から）
（５）言葉を選ぶ（大抵は大人が話しすぎ）

誰かの「難しい」の一言から出発できると授業は「仲間づくり」になる

「分かる人？」「できる人？」という挙手指名方式で、居場所がない、逃げ場がない状態に追い込まれる子供がいます。「分からない人？」と聞かれても素直に言えない子供がいます。そのような時は、こう聞いてみてください。

「正直言うとピンと来ていない人」
「え？アレっ？と思った人」
「もっと考えるヒントがほしい人」
「一人（ペア）では無理だという人」
「みんな助けて！の人」

川上先生の言葉から　「特別支援教育」ってどんな教育？

「できないことをできるようにさせていくこと」ばかりではなく、
「もともと育ちたがっている部分を見つけ、応援していくこと」

育ちは一人一人異なって当たり前

あるもの探し